

パーキンソン病とともに生きる

パーキンソン病当事者の原作による パネルディスカッション
演劇「飛べ！ ポンコツロボット」 「パーキンソン病の現実と希望」

～4月12日(日) 観劇と討論の集い～

全国パーキンソン病友の会京都府支部

高齢化社会の進展にともない、パーキンソン病の患者は急増しているといわれます。近年 iPS細胞を用いた再生医療の可能性が喧伝されていますが、実際には依然「進行性の難病」として恐れられています。しかし私たちはパーキンソン病とともに生きていく法、しかも明るく励ましく合って生きていく法を知っています。そのことをパーキンソン病の啓発劇を鑑賞することをおして、また関係職種の方々とのディスカッションをおして明らかにし、希望を語りたと思います。

日時：2026年4月12日(日) 2部制

<第1部> 13:30～15:30

・演劇上演「飛べ！ ポンコツロボット」(約55分)

休憩(15分)

・パネルディスカッション「パーキンソン病の現実と希望」(約45分)

* パネルディスカッションでは患者本人と医療職、支援職らがパーキンソン病の現実を語り合い、希望を確かめます。

* 出演予定者：赤松智子(佛教大学作業療法学科教授)ほか理学療法士、言語聴覚士、音楽療法士など

<第2部> 17:00～19:00 *内容・構成は第1部と同じ。

場所：ハートピア京都 大会議室

参加費：無料(啓発のため)

広報&集客：「関係者への啓発」という点を重視し、患者本人や家族にとどまらず理学療法士や作業療法士、言語聴覚士、ケアマネジャーら支援者の参加協力を積極的に訴えます。また作業療法学科や理学療法学科の学生など医療福祉系の学生を招き、将来を見据えた種まきをしたいと思えます(集客目標 第1部:75名 第2部:75名 計150名)

主催：全国パーキンソン病友の会京都府支部

共催：一般社団法人ART & HEALTH きょうと

助成：公益財団法人 京都健康管理研究会

パーキンソン病とともに生きる

当事者の原作による演劇
『飛べ！ポンコツロボット』

×

パネルディスカッション
「パーキンソン病の現実と希望」

日時 2026年4月12日（日）

1日2回上演

【1回目】13:30～15:30

【2回目】17:00～19:00

※開場は各30分前

（各回、演劇上演後にディスカッションを実施します）

会場 ハートピア京都3階 大会議室

（京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅

5番出口（地下鉄連絡通路にて連結）

入場無料 事前申し込み制

※定員になり次第、受付を終了します。



このイベントは、事前のお申し込みが必要です。
下記より①名前 ②人数 ③お電話番号をご連絡ください。

パーキンソン病当事者・ご家族の方は、

TEL 090-8794-6091

（パーキンソン病友の会 京都府支部）

または

TEL・FAX 075-822-2691

（京都難病連 月～金／10～16時）

一般・学生・
専門職の方などは、
右記QRコードから

または

TEL 070-2316-4024

（ART & HEALTH きょうと）



助成：公益財団法人 京都健康管理研究会（泉孝英記念助成金）

プログラム

パーキンソン病とともに生きる人の経験や想いを、
演劇と対話で共有するイベントです

【1部】 演劇「飛べ！ポンコツロボット」（約55分）

出演 50歳からのハローシアター
友情出演 パーキンソン病友の会京都府支部 演劇サポーター

近未来。パーキンソン病を抱えるヨウコと
介護ロボットとの交流や葛藤を通して、
「病と共に生きること」を問いかける演劇作品。



～休憩～（15分）

【2部】 パネルディスカッション「パーキンソン病の現実と希望」（約45分）

演劇を入口に、当事者と専門職が率直に語り合います。

<登壇者紹介>（予定）

パーキンソン病友の会 京都府支部 会員
佛教大学保健医療技術学部作業療法学科 赤松智子教授
理学療法士／言語聴覚士／音楽療法士 ほか

（※登壇者は変更になる場合があります。）

●主催 パーキンソン病友の会京都府支部

パーキンソン病の当事者・家族がつながり、
情報共有や交流、社会啓発を行う
全国組織の京都府支部です。

祝

全国パーキンソン病
友の会
創立50周年！

●共催 一般社団法人 ART & HEALTH きょうと

演劇やアートを通して、病や老いとともに生きる人の声を
社会につなぐ団体。演劇事業「50歳からのハローシアター」では
パーキンソン病の方を対象とした出張演劇リハビリワークショップや、
シニア世代向け演劇ワークショップを実施しています。



50歳からのハローシアター